胆振東部地震に起因した崩壊地での緑化試験による緑化状況・その６

１　はじめに

2018 年（平成 30 年）9 月 6 日に発生した胆振東部地震では、被災 3 町で 4,293ha という膨大な面積の森林が崩壊しました。2019 年（令和元年）には、崩壊地の森林復旧に向けた様々な実証試験が行われ、その一つとして、当社に関連する技術である「ECO バインド Air 工法（以下「EBA」という。）」を主体とした資材を用いた試験が実施されました。

今回、施工後 7 年を経過した緑化状況を確認しました。

【実証試験の概要】

業 務 名 ：大規模崩壊地森林造成実証試験その 2 委託業務

・この業務では様々な試験が行われており、その中の一つとして EBA に関する緑化試験が実施されています。

発 注 者 ：北海道

受 注 者 ：（地独）北海道立総合研究機構

施工年月：2019 年 9 月

施工箇所：厚真町内 3 箇所（高丘 8・9、幌内）

施工内容：「ECO バインド Air 工法」で使用する資材を主体とするスラリーの散布

・通常はヘリコプターで散布しますが、今回は小面積なので同様の資材を人力で散布しています。

２　試験施工地の状況

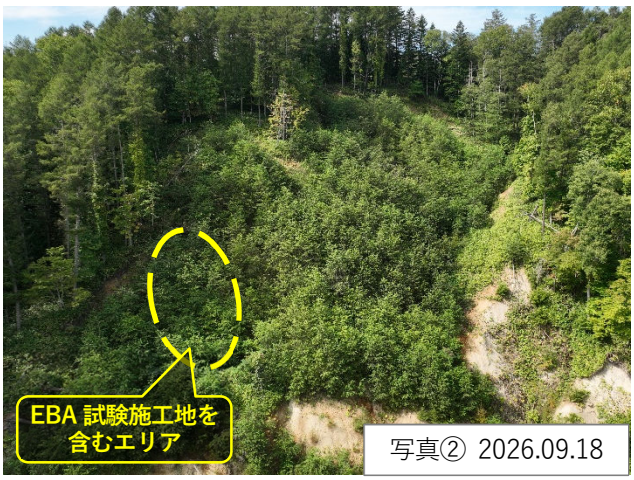
令和 8 年 9 月 18 日にドローンを用いて当該試験施工地 3 箇所（高丘 8 ・9、幌内）の状況確認を実施しました。

（1）高丘 8

この箇所は、斜面全体の植生の回復が進んでいることから、試験施工箇所を識別して試験結果を追跡することが困難な状況となっています。（写真①～②）



○ 施工後 1 冬経過後の状況



○ 施工後 7 年経過後の状況

（2）高丘 9

この箇所では様々な実証試験が行われ、試験施工した斜面では一定程度の緑化が進んでいる状況が確認されています。

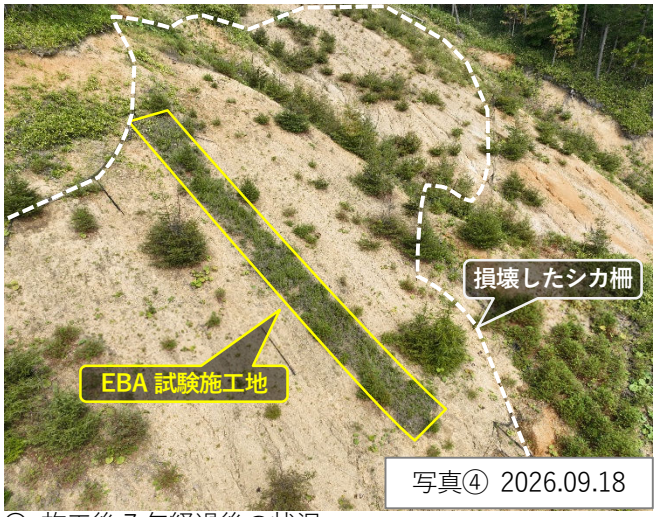
一方で、未施工の斜面は裸地のままとなっており、植生の生育には厳しい環境であることがうかがえます。

そのような環境下においても、EBA 試験施工地では施工当初から現在に至るまで植生が定着しており、その効果が現在も確認されています。（写真③～⑥）

また、施工後 6 年時点の状況（写真⑤）と比較しても大きな変化は認められません。



○ 施工後 1 冬経過後の状況



○ 施工後 7 年経過後の状況



○ 施工後 6 年経過後の状況（昨年の確認状況）



○ 施工後 7 年経過後の状況（昨年度からほぼ変化なし）

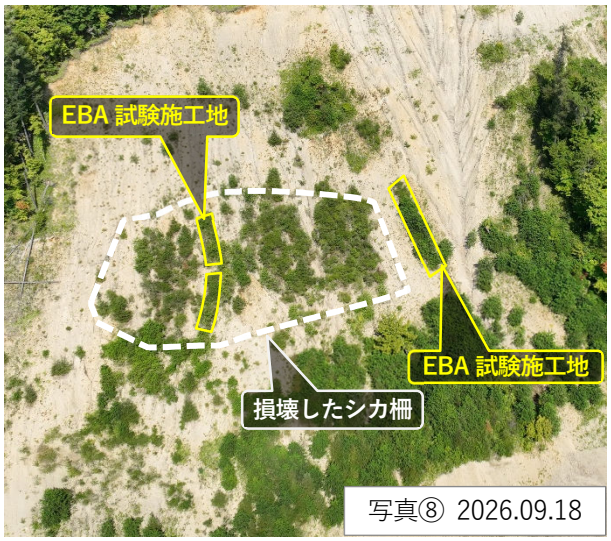
（3）幌内

この箇所でも様々な試験が行われており、試験施工による緑化帯が複数確認されます。（写真⑦～⑩）

また、高丘 9 と同様に、植生の生育には厳しい環境であることがうかがえますが、EBA 試験施工地ではシカ柵の有無にかかわらず、植生の定着が確認されています。（写真⑦～⑩）

一方で、シカ柵外の試験施工地付近の雨裂は現在も拡大傾向にあり、今後の試験施工地への影響が懸念されます。（写真⑩）





○ 施工後 1 冬経過後の状況



○ 施工当初シカ柵で囲われていた箇所の状況

○ 施工後 7 年経過後の状況



○ シカ柵の外側の箇所の状況

3　おわりに

試験施工から 7 年が経過しましたが、EBA 試験施工地では、植生の生育に厳しい環境条件下においても植生の定着が確認されており、緑化効果の継続が認められました。

特に、高丘 9 および幌内では未施工地との対比により、EBA を主体とした資材散布による緑化効果が現在も維持されている状況が確認されました。

今後も継続的な経過観察を行い、植生の推移や斜面環境の変化を確認していきたいと考えています。